

口永良部島の火山活動解説資料（平成 22 年 6 月）

福岡管区气象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方气象台

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。ただし、火口内では引き続き噴気がみられており、火山灰等の噴出する可能性があります。また、火口付近では火山ガスに対する注意が必要です。

平成 21 年 10 月 30 日に噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 6 月の活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図 3）

噴煙活動は低調で、噴煙の高さは火口縁上概ね 100m（最高高度は 200m）で経過しました。

・地震や微動の発生状況（図 2、図 3）

火山性地震は少ない状態で経過しました。月回数は 17 回（5 月：20 回）でした。震源は新岳火口直下のごく浅いところに分布し、これまでと比べて変化はありませんでした。

火山性微動の月回数は 15 回（5 月：30 回）で、前期間と比べてやや減少しました。

・地殻変動の状況（図 3、図 4）

GPS 連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 22 年 7 月分）は平成 22 年 8 月 5 日に発表する予定です。

※この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学及び独立行政法人産業技術総合研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 20 業使、第 385 号）。

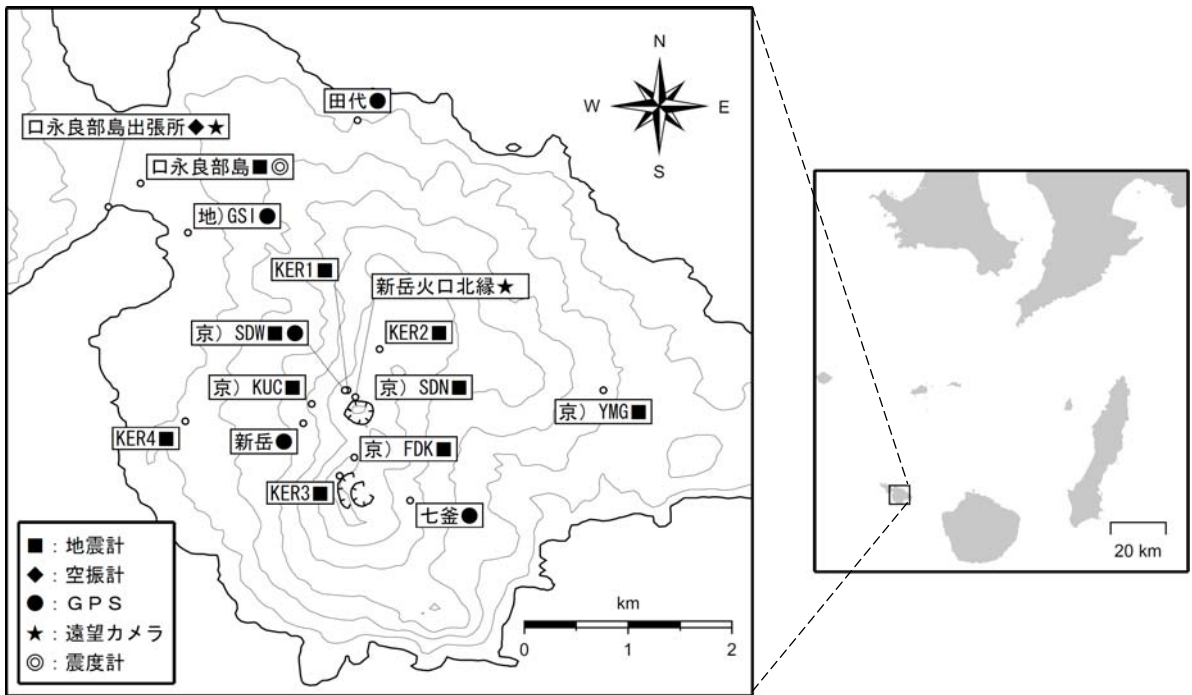


図 1 口永良部島 観測点配置図

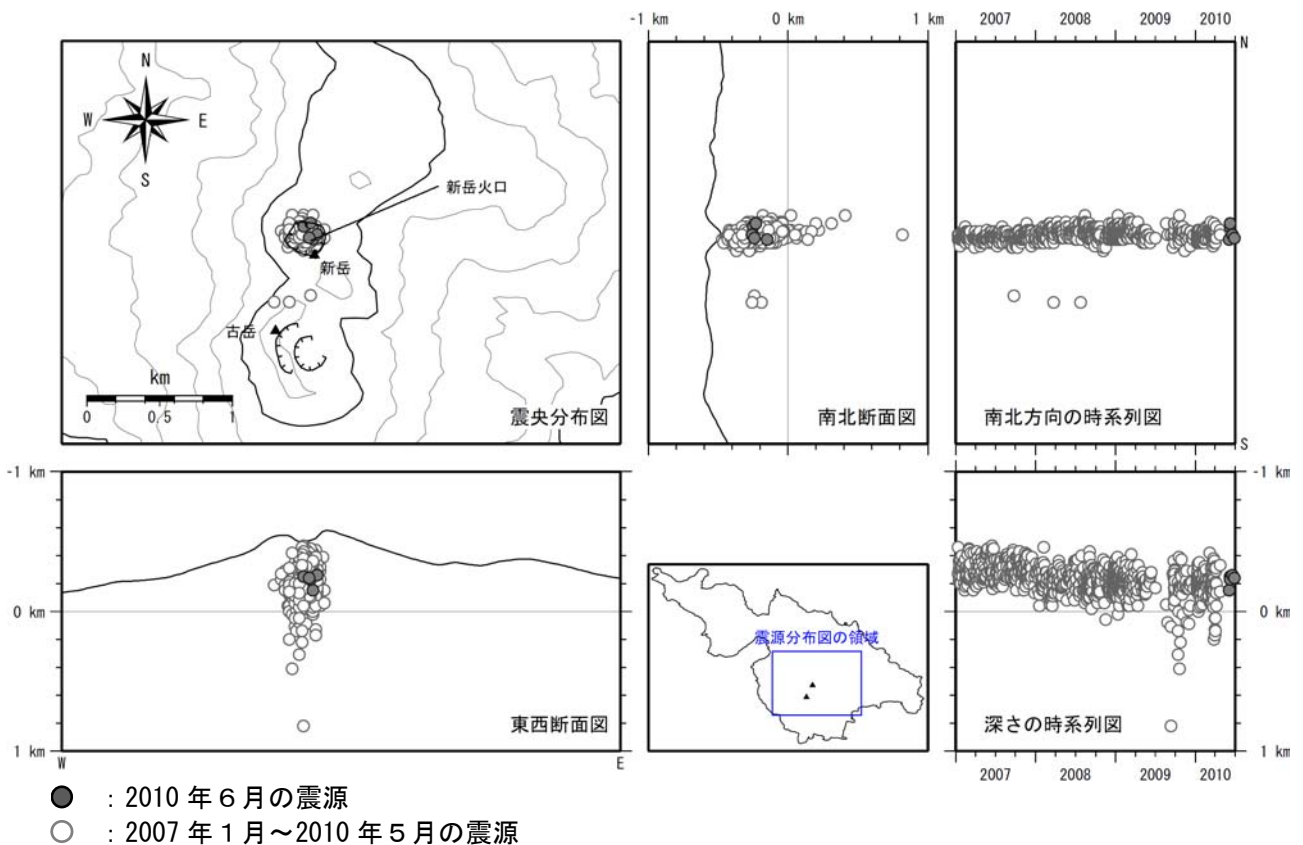


図 2※ 口永良部島 震源分布図（2007 年 1 月～2010 年 6 月）

< 6 月の状況 >

火山性地震の震源はこれまでと同様、新岳火口直下のごく浅いところに分布しました。

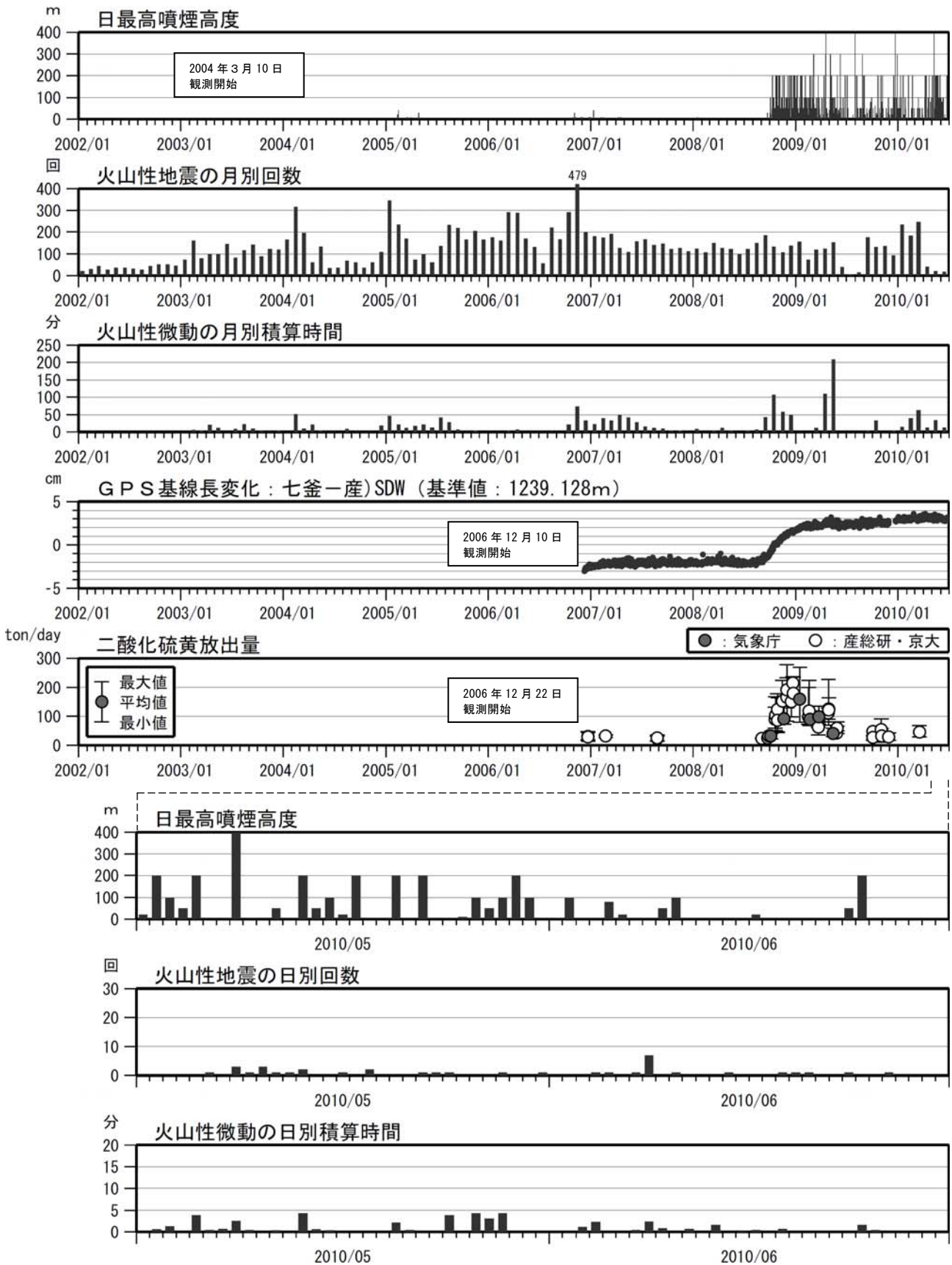


図 3※ 口永良部島 火山活動経過図（2002 年 1 月～2010 年 6 月）

< 6 月の状況 >

- ・ 噴煙活動は低調で、噴煙の高さは概ね 100m（最高高度は 200m）で経過しました。
- ・ 火山性地震は少ない状態で経過しました。月回数は 17 回（5 月：20 回）でした。
- ・ 火山性微動の月回数は 15 回（5 月：30 回）で、前期間と比べてやや減少しました。

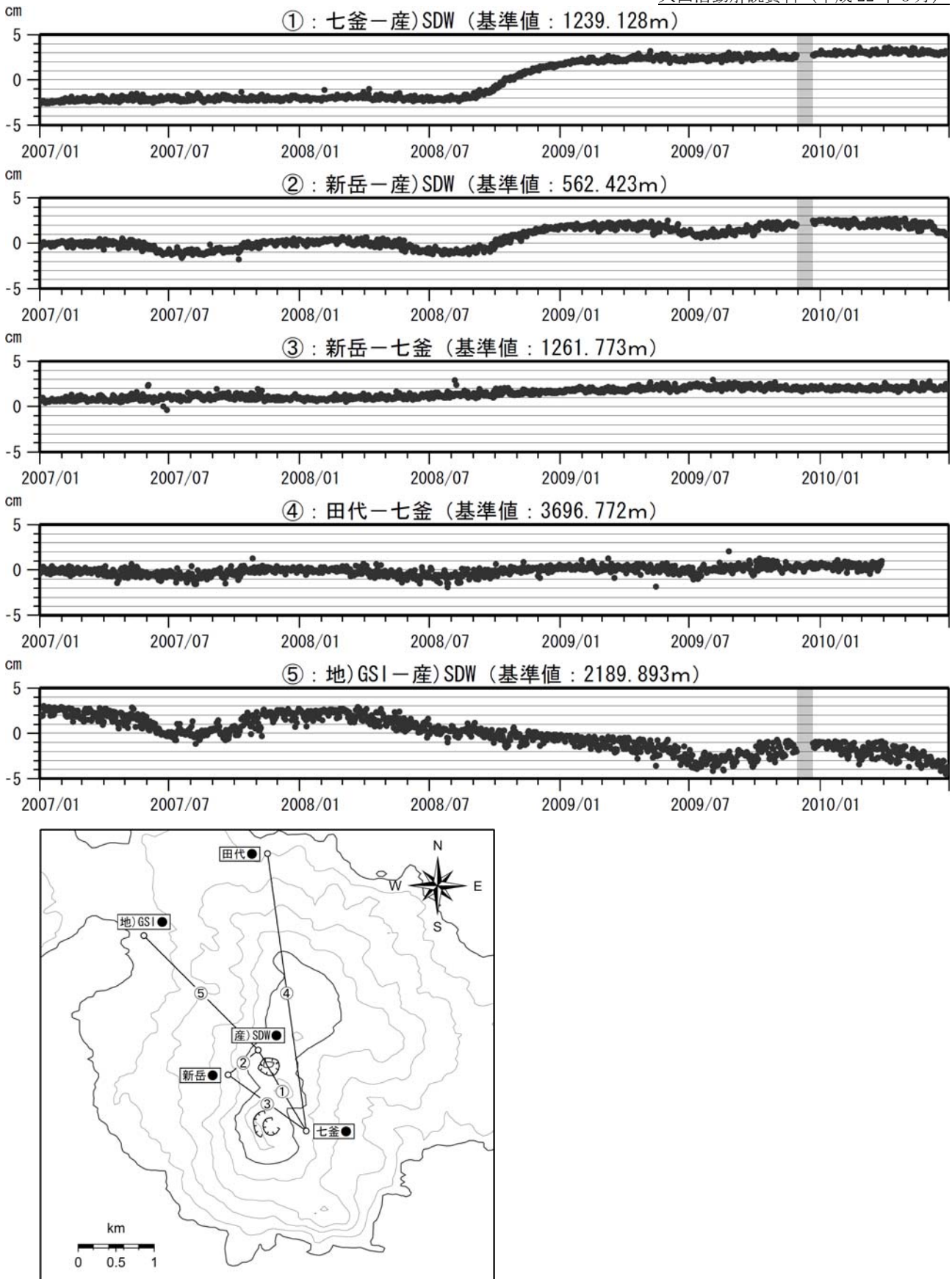


図 4※ 口永良部島 GPS 連続観測による基線長変化 (2007 年 1 月~2010 年 6 月)
 <6 月の状況>
 火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

灰色部分は観測点障害のため欠測。
 田代観測点は機器障害のため 2010 年 2 月から現地収録としています。未回収分のデータについては回収後掲載します。